

読賣新聞

令和3年4月22日

読賣新聞 28面（地域）で掲載していただきました。

ありがとうございます。

出版社第1作「令和万葉集」

佐々木さん監修 給付金10万円で創業



「令和万葉集」を出版した万葉社の佐々木さん

新型コロナウイルス対策として出版した万葉社だが、国の特別定額給付金10万円を元手に、作家・佐々木良さん（高松市）が編集した出版社「万葉社」が、1作目となる本「令和万葉集」を発売した。同社は昨年8月、学芸員

経験のある佐々木さんが設立、最初の発行物として、社名の由来にもなった万葉集を取り上げ、「詩経（令和）」の出版「梅花の歌（二十二首）」を1冊にまとめた。

序文は漢語体、和歌が万葉集名で書かれた万葉集の詩歌を踏まえ、「令和万葉集」では、東京の書道家・橋本さんが序文を書き下し文の難読で、和歌を教わって書きました。

佐々木さんが監修し、序文や和歌の原文、訳、解説などを執筆。「1冊目の1冊」月立ち、春の巻からは、かく

しこそ、梅を給さうつ、春し、梅への一では、「主貴」としてうたげの本誌を編つた「梅花の歌」なると説明して

いる。巻末には、万葉集名の解説も盛り込んだ。佐々木さんは万葉集は、最古級の写本の一つが県内に現存するなど、香川にゆかりがある。目で見て楽しめる本なので、日本語のおもしろさや万葉集を堪能してほしいと語っている。四六判1冊で、県内の書店やインターネットで購入できる。問い合わせはメール（info@manyoshu.co.jp）。